

農作物技術情報 第8号 水稻

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

◆ 今年の栽培管理から、生育に対応した必要な対策を実施できたか、コスト面での無駄はなかったか等、来年に向けて振り返りを行いましょう。

1 本年の生育経過

(1) 育苗期

県内のは種盛期（50％）は、平年より1日早い4月15日頃となりました。育苗期は気温が高く、日照時間も多く推移したことから、概ね良質な苗質が確保されました。一方で、高温の影響により、一部地域では細菌病類の発生が多くみられました。

(2) 活着～分けつ期～幼穂形成期

県内の移植盛期（50％）は平年並の5月17日頃となりました。終期（90％）は5月25日頃で、平年より1日遅くなりましたが、各地域とも概ね適期内に田植え作業が終了しました。

5月第5半旬の低温により、一部では活着後の初期生育に遅れがみられました。

6月第2半旬および6月第5半旬の低温・寡照の影響により、分けつ期の茎数は6月中旬で平年比97％、6月下旬で同87％となりました。

その後、7月第2半旬から第5半旬にかけて気温が高く推移したことから生育は回復し、幼穂形成期は平年より1日遅い7月9日頃、減数分裂期は平年並の7月21日頃となりました。

なお、8月1日から2日にかけての大雨により、一部地域で冠水被害が発生しました。

(3) 出穂・登熟期

県全体の出穂盛期（50％）は、平年並の8月3日頃となりました。

登熟前半に当たる8月第2半旬から第5半旬にかけて、気温が平年並からやや高く推移したことから、登熟は順調に進みました。一方、8月第6半旬以降は低温・寡照傾向となり、降水量が多く、収穫作業の遅れが懸念されましたが、好天時を活用して刈取りが進められ、刈取り盛期（50％）は平年より1日早い10月1日頃となりました。

(4) 本年の作柄

9月25日現在、岩手県の予想収量（農林水産省東北農政局、令和8年10月13日公表）は、10a当たり522kg（篩い目幅1.90mm）、作況単収指数98と見込まれています。

2 来年の作付けに向けて

(1) 育苗

育苗設備や人員体制、作業スケジュールを点検するとともに、基本に立ち返って必要な技術対策（浸種水槽の保温対策、プール育苗等の技術導入）を講じます。また、病害の発生リスクを減らすために、育苗箱等の資材の洗浄、施設内の清掃を徹底し、清潔な育苗環境の維持に努めます。

本年発生が多かった細菌病類の発生防止に向けては、今後発行する技術情報等を確認の上、対策

を徹底してください。

(2) 本田管理

ア 初期生育の確保

初期生育の確保のため、育苗管理や移植後の水管理、栽植密度・植付本数をチェックします。

イ 中干しの適切な実施

中干しには、過剰分げつの発生や下位節間の伸長を抑える効果があり、倒伏軽減につながります。遅くとも6月25日頃には目標茎数を確保して中干しを開始できるよう、移植時期や生育前半の管理を確認します。また、中干し期間を延長する際は、過度の中干しは減収につながる場合があるので、強度の中干しを避け、幼穂形成期までに中干しを終えるようにします。

ウ 病害虫・雑草防除

病害虫・雑草の発生状況や栽培管理について振り返り、適期に防除が実施できるように防除計画を立てます。

エ 登熟を低下させない水管理

登熟前半に高温が続く場合、登熟不良や玄米品質の低下を招く恐れがありますので、夜間かんがいや土壌を常に湿潤状態に保つ管理など、地域のかんがい水の状況に応じた水管理を検討します。

オ 適期刈取り

刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めます。近年は高温により出穂期や成熟期が早まる傾向にあります。早い段階から刈取り時期の見通しを立てるとともに、乾燥調製施設の運用が円滑に行われるよう、稼働計画の策定や設備点検などの準備を進めておきます。

カ その他

必要な栽培管理がもれなく実施できるよう、現在の営農体制（作業暦や人員、機械装備）と作付規模を照らして、必要に応じて見直しをするとともに、複数品種の作付や苗質の変更、直播栽培などの技術導入による作業分散も検討します。

3 稲作の低コスト・省力栽培技術の導入に向けて

肥料・燃油価格は依然として高い状況にあります。以下の観点も踏まえながら総合的なコスト低減・省力化に努めます。

- ・ 作付面積の拡大（規模拡大）⇒ 10aあたり生産費の低減
- ・ 生産量の増加（収量増加）⇒ 60kgあたり生産費、生産物10,000円あたり生産費の低減
- ・ 販売単価の向上（有利販売）⇒ 生産物10,000円あたり生産費の低減

岩手県では下記のマニュアルを岩手県ホームページに掲載しています。是非一度ご確認ください。

低コスト稲作栽培技術マニュアル（令和5年4月）

https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/007/686/manual_r0504_4.pdf

岩手県肥料コスト低減技術マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page/_002/004/581/hiryokosutoteigen0406.pdf

岩手県スマート農業事例集（令和7年3月）

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page/_002/003/505/iwate_smartagri_jirei_v5.pdf

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

農作物技術情報「水稻」の本年度定期発行は今号で終了となりますが、気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。